

平成29年度学校評価アンケート集計結果

教職員・生徒・保護者の三者から見た各評価項目の集計結果

調査対象：本校生徒・保護者・教職員

実施日：平成29年12月7日（火）

回答率：生徒 814/835（97%） 保護者 721/835（86%） 教職員63/63（100%）

*昨年度はそれぞれ、93%・80%・95%

学校評価委員会

はじめに

宮城県教育委員会で定めた「生徒・保護者共通アンケート（12→13項目）」を使用するようになり9年目です。

本校には部活動がなく、生徒会活動をボランティア活動として実施しているところから、部活動及び生徒会活動に関する質問については「フロンティアタイム・産業社会と人間・プロジェクトスタディの効果」と「サークル活動・ボランティア活動の状況」に関する質問に差し替えて実施しています。

過去3年間のアンケート結果等を比較して、本校の課題を探りました。

1〔学習指導〕

「生徒にとって（お子さんの）、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」

	教職員	生徒	保護者	〔肯定的割合〕	生徒年次別割合					
					1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
H29	95%	81%	85%	〔肯定的割合〕	1年次 76%	2年次 80%	3年次 86%			
H28	89%	81%	86%	〔肯定的割合〕	1年次 86%	2年次 85%	3年次 72%			
H27	87%	77%	83%	〔肯定的割合〕	1年次 85%	2年次 63%	3年次 83%			
H26	80%	79%	86%	〔肯定的割合〕	1年次 78%	2年次 78%	3年次 80%			

《分析》県全体の平均値と比べ、もともと数値の高い項目です。三者の肯定的割合が高く、特に3年次で高い評価ができました。これは授業力向上を目指す取り組みが本格化し、自分たちの授業を見つめ直し、改善に向かう過程にあるからだと思われれます。毎年秋に教科の授業を見学し合う授業公開週間を設定し、教科を超えてよりよい授業を求めています。また12月には統一的に個別授業評価アンケートを実施して個々に改善を図っていきます。生徒の学力伸長はもちろん、生徒・保護者の信頼を得て高校生活の基軸とするためにも、引き続き授業改善に努めます。

2〔生徒指導〕

「生徒にとって（生徒に対して）挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている」

	教職員	生徒	保護者	〔肯定的割合〕	生徒年次別割合					
					1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
H29	62%	55%	75%	〔肯定的割合〕	1年次 55%	2年次 44%	3年次 66%			
H28	56%	58%	75%	〔肯定的割合〕	1年次 52%	2年次 70%	3年次 53%			
H27	60%	57%	71%	〔肯定的割合〕	1年次 69%	2年次 48%	3年次 57%			
H26	53%	52%	71%	〔肯定的割合〕	1年次 53%	2年次 50%	3年次 54%			

《分析》例年、県全体の平均との乖離が最も目立つ項目であり、本校の重点課題ととらえ、学校全体としてマナー指導に取り組んでいるところです。保護者の肯定的割合が連続して高く、3年次生徒の肯定的割合も多少増加しました。自由を標榜し校則も持たない学校であるからこそ、大人として当然身に付けるべきマナーを明示し、お互いに爽やかな学校生活が送れるよう指導します。

3[進路指導]

「生徒にとって（お子さんの）進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」

	教職員	生徒	保護者	〔肯定的割合〕	生徒年次別割合					
					1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
H29	86%	80%	83%	〔肯定的割合〕	1年次 83%	2年次 76%	3年次 82%			
H28	81%	84%	85%	〔肯定的割合〕	1年次 86%	2年次 86%	3年次 80%			
H27	76%	81%	82%	〔肯定的割合〕	1年次 92%	2年次 71%	3年次 81%			
H26	80%	80%	85%	〔肯定的割合〕	1年次 76%	2年次 81%	3年次 83%			

《分析》進学校としてより高い評価をめざしたいと考える項目です。今年度は昨年度から比較すると2～4ポイント下がるものの学校での取り組みは概ね生徒に伝わっていると考えられます。特に今年度は、模擬試験を有効に活用すること、真剣に受験すること（特に3年次は安易に模試欠席させない）を生徒に意識付けることに力を注いできました。将来構想委員会においても、宮城野高校の3年間を見通した指導プランを策定し、成果を検証しながら体系化を目指しています。〔項目5〕で尋ねている本校独自のキャリア教育と、進路指導部と各年次を中心とする進路指導は車の両輪です。指導プランの体系化を目指す中で、今後ともきめ細やかな進路指導が実現できるように、分掌を超えた全校を上げての研究を続けます。

4[教育相談]

「生徒に対して（生徒にとって）教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができています」

	教職員	生徒	保護者	〔肯定的割合〕	生徒年次別割合					
					1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
H29	98%	87%	85%	〔肯定的割合〕	1年次 91%	2年次 82%	3年次 88%			
H28	100%	84%	89%	〔肯定的割合〕	1年次 82%	2年次 86%	3年次 84%			
H27	89%	82%	84%	〔肯定的割合〕	1年次 87%	2年次 75%	3年次 84%			
H26	86%	80%	87%	〔肯定的割合〕	1年次 77%	2年次 81%	3年次 81%			

《分析》毎年、肯定的割合が県の平均を上回っている項目です。今年度は1・3年次生が高い評価をつけました。東日本大震災後の緊急支援の予算枠を使って、スクールカウンセラーの相談時間の枠を拡張しています。生徒の抱える問題が多様化している中、生徒のわずかな変化も見逃さず、できるだけ早期に適切な対応ができるように今後も学校における支援体制を充実させていきたいと考えます。

5[総合的な学習の時間]*校内での調査項目

「（生徒にとって）『フロンティアタイム・産業社会と人間・プロジェクトスタディ』の授業は進路を考える上で役立っている」

	教職員	生徒	保護者	〔肯定的割合〕	生徒年次別割合					
					1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
H29	79%	70%	78%	〔肯定的割合〕	1年次 72%	2年次 64%	3年次 75%			
H28	82%	71%	82%	〔肯定的割合〕	1年次 74%	2年次 66%	3年次 74%			
H27	74%	72%	84%	〔肯定的割合〕	1年次 79%	2年次 65%	3年次 74%			
H26	77%	72%	86%	〔肯定的割合〕	1年次 74%	2年次 68%	3年次 75%			

《分析》本校独自の調査項目です。3年間を見据えた新しい流れの整理と外部への発信が今後の検討課題です。将来につながる豊かな学力を身につけさせることをめざす、本校にとって大切な教育活動ですから、生徒自身が手応えを感じられるよう指導内容を求め、改善を重ねます。

6[サークル・ボランティア活動]*校内での調査項目

「学校として、サークル活動や校内ボランティアは活発に行われている」

	教職員	生徒	保護者	〔肯定的割合〕	生徒年次別割合					
					1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
H29	52%	78%	73%	〔肯定的割合〕	1年次 80%	2年次 76%	3年次 80%			
H28	40%	78%	73%	〔肯定的割合〕	1年次 80%	2年次 80%	3年次 75%			
H27	50%	78%	75%	〔肯定的割合〕	1年次 84%	2年次 73%	3年次 78%			
H26	53%	75%	75%	〔肯定的割合〕	1年次 75%	2年次 73%	3年次 78%			

《分析》本校独自の調査項目です。この3年間で、教職員の肯定的割合が増減しています。一方生徒の肯定的評価は高まっています。サークル活動の活性化は、本校を活性化するためには欠かせない課題です。部活動に代わる放課後の自主的な活動としてスタートしたサークル活動の可能性について、生徒指導部を中心に改善を図ります。

7〔学校行事〕

「自分にとって（お子さんにとって・生徒にとって）有意義な学校行事がある」

	教職員	生徒	保護者		生徒年次別割合					
H29	87%	87%	88%	〔肯定的割合〕	1年次	87%	2年次	82%	3年次	91%
H28	91%	89%	91%	〔肯定的割合〕	1年次	88%	2年次	91%	3年次	87%
H27	84%	85%	89%	〔肯定的割合〕	1年次	89%	2年次	77%	3年次	89%
H26	83%	87%	89%	〔肯定的割合〕	1年次	81%	2年次	87%	3年次	92%

《分析》肯定的割合が高い項目ですが、今年度は三者の肯定的割合が減少したものの3年次の割合が増加しました。体育的行事や文化的行事は、生徒の自主性・主体性を重んじ生徒を育てていく本校行事の柱となります。今後も校内ボランティアによる行事運営をより魅力のあるものにしていきます。

8〔特色ある学校づくり〕

「学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」

	教職員	生徒	保護者		生徒年次別割合					
H29	56%	60%	72%	〔肯定的割合〕	1年次	63%	2年次	57%	3年次	61%
H28	49%	56%	69%	〔肯定的割合〕	1年次	57%	2年次	64%	3年次	47%
H27	45%	53%	62%	〔肯定的割合〕	1年次	66%	2年次	40%	3年次	54%
H26	50%	52%	69%	〔肯定的割合〕	1年次	55%	2年次	52%	3年次	51%

《分析》例年は項目2「生徒指導」と並んで県平均に比べて肯定的割合が低い項目ですが、三者とも微増しています。美術科ではさまざまな場面でその活躍をアピールし、県内外で高い評価を得ています。総合学科・普通科においても総合的な学習の時間やボランティア活動など、他の県立高校に負けない宮城野高校固有の特色づくりを意識し、地域社会や他校から承認される実績を重ねて、特色ある学校としてアピールして行きたいと考えています。

9〔防災教育〕

「生徒に対して（保護者・生徒に対して）、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている」

	教職員	生徒	保護者		生徒年次別割合					
H29	92%	89%	86%	〔肯定的割合〕	1年次	88%	2年次	87%	3年次	92%
H28	93%	91%	85%	〔肯定的割合〕	1年次	89%	2年次	92%	3年次	91%
H27	94%	86%	81%	〔肯定的割合〕	1年次	86%	2年次	78%	3年次	91%
H26	83%	85%	79%	〔肯定的割合〕	1年次	81%	2年次	90%	3年次	89%

《分析》台風による臨時休業の対応が問題となった事例を契機とし、地震や風水害に細やかに対応できるよう、緊急連絡等の改善を行っています。学校としての連絡体制や避難方法の意味を、生徒や保護者により一層周知する努力と共に今後想定される様々な自然災害や緊急事態に適切な対応ができるよう事前マニュアルの検討を含めて整備し、備蓄品の整備・防災計画の見直し等を引き続き強化するとともに、生徒・保護者へのアナウンスを徹底していきます。

10〔開かれた学校づくり〕

「保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている」

	教職員	生徒	保護者		生徒年次別割合					
H29	70%	87%	82%	〔肯定的割合〕	1年次	91%	2年次	85%	3年次	85%
H28	74%	88%	81%	〔肯定的割合〕	1年次	88%	2年次	89%	3年次	87%
H27	74%	84%	81%	〔肯定的割合〕	1年次	89%	2年次	80%	3年次	87%
H26	84%	86%	78%	〔肯定的割合〕	1年次	84%	2年次	88%	3年次	83%

《分析》保護者の肯定的割合が昨年度より増加しました。教職員・生徒の肯定的割合は比較的安定しています。「学校からの通知が保護者の手まで届いていない」というご意見も、例年同様自由記述に見られました。公式ホームページの活用に加え、メール等での通知を工夫するなど、家庭に伝わる適切な情報提供について引き続き検討します。

11〔施設設備〕

「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている」

	教職員	生徒	保護者		生徒年次別割合					
H29	94%	91%	94%	〔肯定的割合〕	1年次	88%	2年次	91%	3年次	94%
H28	90%	93%	98%	〔肯定的割合〕	1年次	94%	2年次	96%	3年次	90%
H27	92%	91%	95%	〔肯定的割合〕	1年次	93%	2年次	88%	3年次	93%
H26	88%	92%	97%	〔肯定的割合〕	1年次	91%	2年次	96%	3年次	89%

《分析》本校は県内有数の施設設備を備えており、例年肯定的評価の割合がもっとも高い項目です。本校の魅力として今後とも環境整備に努めていきます。

12〔いじめ問題〕

「学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる」

	教職員	生徒	保護者		生徒年次別割合					
H29	94%	73%	61%	〔肯定的割合〕	1年次	71%	2年次	72%	3年次	76%
H28	95%	76%	60%	〔肯定的割合〕	1年次	72%	2年次	79%	3年次	76%
H27	94%	70%	53%	〔肯定的割合〕	1年次	75%	2年次	61%	3年次	74%
H26	78%	67%	56%	〔肯定的割合〕	1年次	65%	2年次	71%	3年次	66%

《分析》本校は例年いじめの事例は多くありませんが、SNS等の普及に伴い、生徒同士のトラブルも散見されるようになりました。教職員や生徒の肯定的評価はわずかに減少しましたが、保護者からは今までで最も高い評価をいただきました。各期にいじめ調査を行い、きめ細やかな把握をするとともに、日々のやり取りの中で生徒が安心した生活を送れるよう努め、保護者のご理解を更に高めていきます。

13〔総合満足度〕

「自分にとって（お父さんの・生徒にとって）、学校生活は充実している」

	教職員	生徒	保護者		生徒年次別割合					
H29	73%	87%	89%	〔肯定的割合〕	1年次	86%	2年次	84%	3年次	90%
H28	75%	87%	91%	〔肯定的割合〕	1年次	87%	2年次	92%	3年次	82%
H27	79%	82%	89%	〔肯定的割合〕	1年次	85%	2年次	74%	3年次	87%
H26	84%	86%	88%	〔肯定的割合〕	1年次	82%	2年次	86%	3年次	89%

《分析》「総合満足度」は学校評価におけるもっとも重要な項目です。学習指導・進路指導・生徒指導その他の各部面で気になることがあっても、総合的には「子どもの高校生活は充実している」と感じている方が多いことが分かります。県全体でも平均値は徐々に上がっていますが、本校では今年度は教職員の肯定的割合が減少していますが、生徒の肯定的割合は安定しています。今後も1年次から生徒・保護者の皆様の満足度がより高まっていくよう努力する所存です。

14〔家庭学習〕＊校内での調査項目

「放課後の学習時間は、ほぼ毎日2時間以上である」

	教職員	生徒	保護者		生徒年次別割合					
H29	21%	50%	44%	〔肯定的割合〕	1年次	34%	2年次	44%	3年次	74%
H28	14%	48%	45%	〔肯定的割合〕	1年次	33%	2年次	35%	3年次	77%
H27	26%	52%	48%	〔肯定的割合〕	1年次	37%	2年次	47%	3年次	72%
H26	36%	48%	43%	〔肯定的割合〕	1年次	26%	2年次	43%	3年次	89%

《分析》今年度は教職員・生徒の肯定的割合が微増しました。保護者の割合は昨年度より減少しています。年次集会などで指導してまいりましたが、家庭学習は学校での学びを支える土台であり、授業に充実感をもたらす、進路達成の道を切り開くものです。年次では面談やホームでの調査を通して実態を把握し、各教科の課題を工夫するなど連携して指導に当たり、改善を図っています。

15〔シラバス〕＊校内での調査項目

「シラバスは学習に役立っている」

	教職員	生徒	保護者		生徒年次別割合					
H29	41%	55%	65%	〔肯定的割合〕	1年次	64%	2年次	50%	3年次	51%
H28	35%	43%	61%	〔肯定的割合〕	1年次	51%	2年次	38%	3年次	39%
H27	44%	42%		〔肯定的割合〕	1年次	47%	2年次	40%	3年次	42%
H26	53%	46%		〔肯定的割合〕						

《分析》シラバス（授業計画書）の活用については、三者の肯定的割合が増加しています。授業改善のひとつの大きな要素と考えて、活用のあり方を再度検討し、引き続き努力してまいります。